



看板施策は成果指標を明確に

これまで展望ホールだった県庁32階の再整備(左図) 3億2千万円

山本知事就任以降、県庁32階に動画スタジオやカフェスペースなどを整備(総額3億2千万円)、また群馬県のゆるキャラ「ぐんまちゃん」のブランド力強化(1億2千万円)など、矢継ぎ早に「山本色」全開の施策を予算化しています。

本県の「弱み」である発信力不足を改善し、また本県独自の資源を活用しようという発想そのものは理解できます。しかし、これだけ巨額の予算をかけることには多くの批判が寄せられていることも事実です。

後藤は代表質問において、県民理解を得るためには成果で示すしかないという指摘。知事も「近々に分かりやすい成果指標を示したい」と応じました。

今後、知事の施策を「パフォーマンス」に終わらせられないよう、会派の枠を超えて厳しくチェックしていけるか。二元代表制の一翼を担う議会の真価が厳しく問われることとなります。

パフォーマンス先行型に
対峙
問われる議会の
チェック機能

ぐんまちゃんのブランド力強化(アニメーション動画の製作など) 1億2千万円



「要望」から「提言」へ リベラル群馬政策提言

リベラル群馬政策提言の骨子

1 持続可能な群馬づくり

財政・山村地域・環境・社会保障などの「持続可能性」を県政運営の軸に。

2 公共投資の未来志向的転換

従来型の公共事業中心から、自然エネルギー、観光など新成長分野へ積極投資。

3 「人」中心の社会・経済づくり

教育や働き方改革等を通じて「人材」を育み、力を発揮できる仕組みづくり。

4 弱者・マイノリティに優しい県政

障がい者や貧困層などの社会的弱者、LGBTなどの社会的マイノリティに優しく寄り添う県政。

県議会の傾向として、どうしても個別の施策や事業を要望する場になりがちですが、本来はもっと大局から県政の方向性を提言する存在であるべきと後藤は考えます。

後藤が、財政健全化や山村地域、公共交通の再生などの施策にこだわってきたのは、県政の方向性を「成長・拡大」から「持続可能性」へと転換すべきという理念からです。

毎年行うリベラル群馬の政策提言も一方的な要望という姿勢でなく、常に「仮に自分が知事になったら」という想定をしながら責任のある提言を行っています。



トピックス 「ぐんま乗換コンシェルジュ」を活用しよう!



観光モデルコースや「ぐんま元気アプリ」と連動して、散策コースも紹介。



鉄道だけでなく、バス路線の乗り換え検索ができる画期的なアプリを開発。



県民に最も身近のようで身近でない「路線バス」の利便性を向上させる施策が本格化しています。

後藤は、長野県の施策から学び、乗りたいバスが「いつ、どこで乗れば良いのか?」をスマホで検索できる仕組みを提案。その後、県が開発したのが「ぐんま乗換コンシェルジュ」です。

バスの乗換情報を手軽に検索できる機能に加え、更に「バスがどこを走っているのか?」を見ることが出来る「バスロケーションシステム」機能を追加する予定になっています。

無料でダウンロードできますので、バスの利用促進に是非活用ください。